

商工会議所 L O B O (早期景気観測)

- - 平成 1 5 年 1 1 月調査結果 - -

(平成 1 5 年 1 2 月 2 日)

調査期間：平成 1 5 年 1 1 月 1 8 日 ~ 2 5 日

調査対象：全国の 4 0 2 商工会議所が 2 5 7 1 業種組合等にヒアリング
(内訳) 建設業 3 8 2 製造業 6 3 0 卸売業 2 3 0
小売業 7 3 4 サービス業 5 9 5

調査項目：今月の売上・採算・業況等についての状況 (D I 値を集計)
及び、業界として当面する問題等

D I 値について

D I 値は、売上・採算・業況などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを意味する。

D I = (増加・好転などの回答割合) - (減少・悪化などの回答割合)
業況・採算 : (好転) - (悪化) 売上 : (増加) - (減少)

日本商工会議所

本件担当：産業政策部 TEL: 0 3 - 3 2 8 3 - 7 8 4 3
E-Mail: sangyo@jcci.or.jp

なお、本調査結果は日商ホームページ(<http://www.jcci.or.jp>)でもご覧になれます。

【平成15年11月調査結果のポイント】

業況D Iは5カ月ぶりに悪化、景況は依然、不透明感が続く

11月の景況をみると、全産業合計の業況D I（前年同月比ベース、以下同じ）は、前月水準（35.8）よりマイナス幅が2.9ポイント拡大して38.7となり、5カ月ぶりにマイナス幅が拡大した。

業種別の業況D Iは、製造、サービスを除く3業種でマイナス幅が拡大したため、全産業合計の業況D Iもマイナス幅が拡大した。一部に業況は好調との声はあるものの、依然D I値は低水準で、中小企業の足元では景況の停滞感が根強い。景気の先行きについても、期待するとの声の一方、公共事業の縮小や消費の低迷、競争激化など、不透明感を訴える声が寄せられている。

【建設業】では、「店舗の改修、新築等の工事が来年に向けて増えてきた」（一般工事）との声があるものの、「受注量はますますだが、受注単価は採算割れの厳しい状況」（電気工事）、「年末の公共工事の予定がなく、非常に厳しい状況が依然として続いている」（一般工事）と、引き続き厳しい状況を訴える声が寄せられている。

【製造業】では、「各社とも好転し、一部の会社では残業を行ったうえ日曜日や祭日も工場を稼働させている」（通信機械器具）、「携帯電話新機種の発売、デジタルカメラ、薄型テレビの好調により半導体業界の回復がみられる」（電子部品）と引き続き好調との声の一方、「一部に業績上向きの企業もあるが、悪化している企業もあり、優劣の差が出ている」（非製鋼鋼材）との声が寄せられている。また、「スクラップをはじめとする主原材料が高騰」（鉄素形材）と仕入れコストの上昇を訴える声も寄せられている。

【卸売業】では、「食料品関係は、やや上向きだが、他は特に大きな変化なし」（各種商品）、「従業員のリストラ、経費削減で少々業績は好転したが、販売が伸び悩み利益が出ない」（食料、飲料）、「依然として消費が鈍いため生産過剰になってしまい、全体的に安値が続き売上が伸びない」（農畜産水産物）といった声が寄せられている。

【小売業】では、「おせちの予約販売の反響が良く、クリスマス商戦にも期待」（百貨店）との声はあるものの、「気候が暖かく、冬物衣料を中心に売上が低迷」（商店街）、「客単価の微減が続いており、天候の要因もあるが、消費の減少が当分続くと考え」（百貨店）と天候の影響と消費の低迷を訴える声が寄せられている。また、「農産物の仕入れ単価は下がってきているが、米不足から米の単価が上がってきている」（百貨店）と仕入れコストの上昇を訴える声も寄せられている。

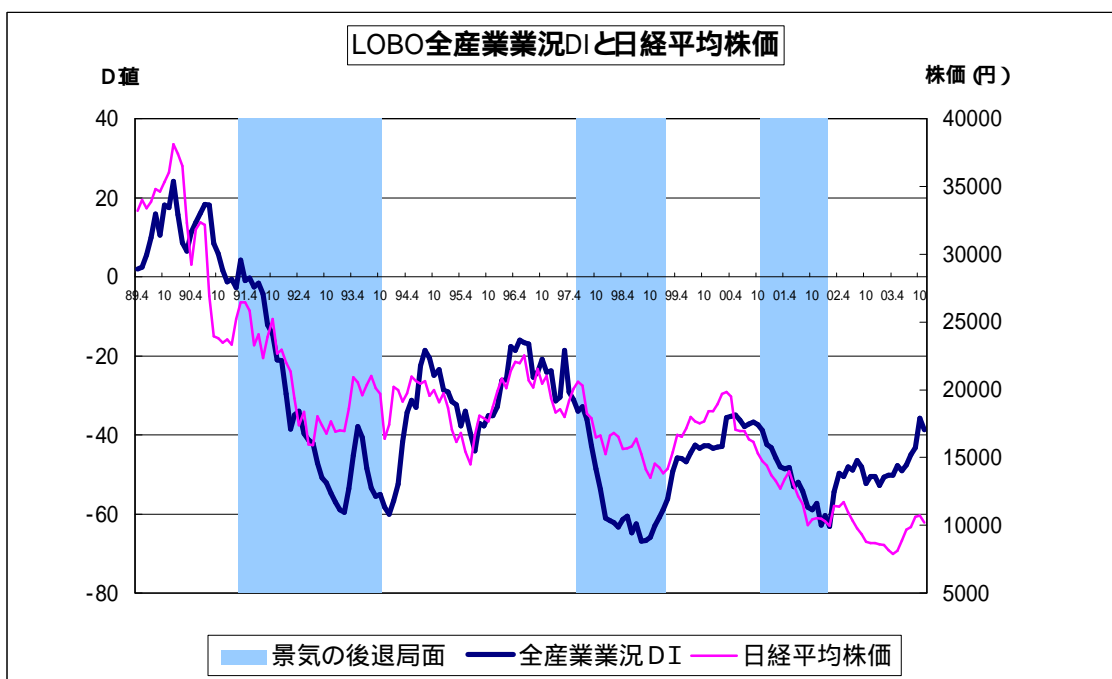
【サービス業】では、「年末年始の予約は、12月に入ってから増加の見込み」（旅館）との声の一方、「顧客が戻り好転してきたが、店舗による格差が大きく、年末に向けて明暗がはっきり分かれそうな状況」（食堂、レストラン）、「年末に向けて先行きは明るい、企業が接待費を削減しているので、不透明感がある」（食堂、レストラン）、「客数は微増だが客単価は微減で、安い料金の時間帯に流れる傾向がある」（スポーツ施設）といった声が寄せられている。

売上面では、D I 値のマイナス幅はサービスを除く 4 業種で前月水準より拡大し、全産業合計の売上 D I は 7 . 3 ポイント拡大して 3 5 . 8 となり、5 カ月ぶりにマイナス幅が拡大した。

採算面では、D I 値のマイナス幅は製造、サービスを除く 3 業種で前月水準より拡大し、全産業合計の採算 D I は 2 . 9 ポイント拡大して 3 7 . 1 となり、5 カ月ぶりにマイナス幅が拡大した。

向こう 3 カ月 (1 2 月 ~ 2 月) の先行き見通しについては、全産業合計の業況 D I (今月比ベース) が 3 0 . 3 と、昨年同時期の先行き見通し (4 5 . 1) と比べて改善している。

景気に関する声、当面する問題としては、景況感に回復の兆しとの声の一方、公共事業の縮小や消費の低迷、競争激化などを訴えるコメントが依然として多い。



【業況についての判断】

11月の景況をみると、全産業合計の業況DI（前年同月比ベース、以下同じ）は、前月水準（35.8）よりマイナス幅が2.9ポイント拡大して38.7となり、5カ月ぶりにマイナス幅が拡大した。

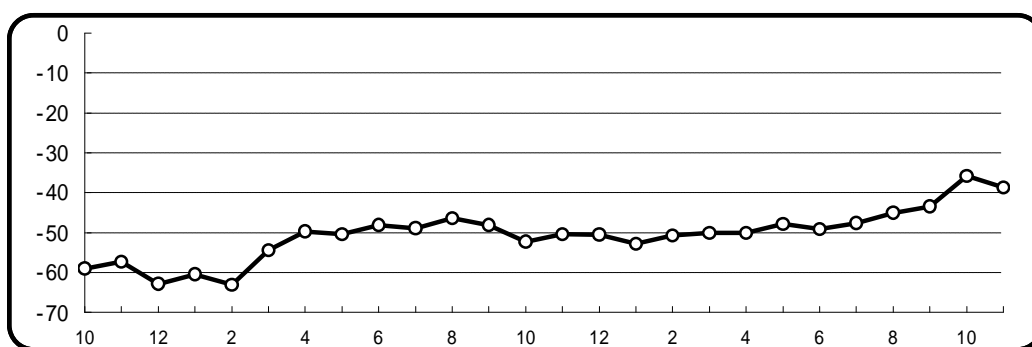
向こう3カ月（12月～2月）の先行き見通しについては、全産業合計の業況DI（今月比ベース）が30.3と、昨年同時期の先行き見通し（45.1）と比べて改善している。

業況DI（前年同月比）の推移

	15年 6月	7月	8月	9月	10月	11月	先行き見通し 12～2月
全産業	49.1	47.6	45.0	43.4	35.8	38.7	30.3 (45.1)
建設	61.7	59.0	57.2	54.6	53.6	54.4	49.6 (60.6)
製造	44.3	37.3	31.8	31.7	24.6	23.0	21.9 (41.2)
卸売	44.6	47.0	52.1	41.1	36.5	40.7	29.6 (43.1)
小売	46.4	50.0	48.2	48.3	34.1	47.8	31.3 (40.6)
サービス	51.4	48.9	44.4	43.6	38.0	33.3	25.5 (45.3)

「先行き見通し」は当月に比した向こう3カ月の先行き見通しDI
（ ）内は昨年11月の先行き見通しDI <以下同じ>

《業況DI（全産業・前年同月比）の推移》



【売上（受注・出荷）の状況についての判断】

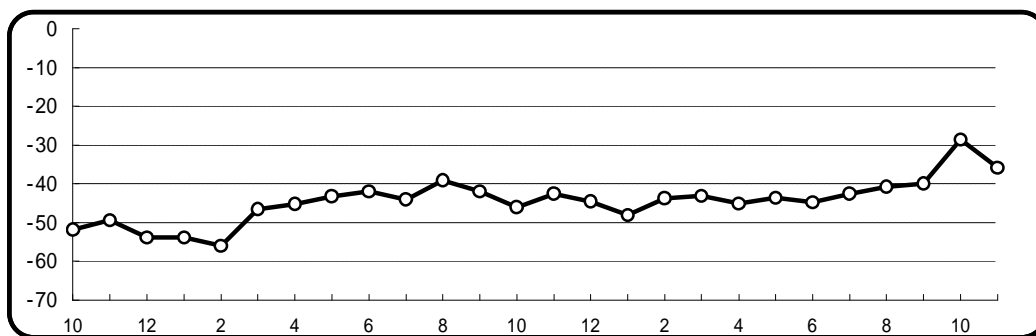
売上面では、D I 値のマイナス幅はサービスを除く4業種で前月水準より拡大し、全産業合計の売上D I は7.3ポイント拡大して 35.8となり、5カ月ぶりにマイナス幅が拡大した。

向こう3カ月(12月～2月)の先行き見通しについては、全産業合計の売上D I (今月比ベース)が 26.5と、昨年同時期の先行き見通し(37.7)に比べて改善している。

売上（受注・出荷）D I（前年同月比）の推移

	15年 6月	7月	8月	9月	10月	11月	先行き見通し 12～2月
全産業	44.7	42.5	40.7	39.9	28.5	35.8	26.5 (37.7)
建設	59.2	52.0	50.9	50.9	41.6	47.4	45.3 (53.2)
製造	36.8	31.0	24.3	24.4	14.2	17.4	21.2 (37.5)
卸売	39.2	45.2	46.7	36.8	30.5	39.5	27.2 (33.5)
小売	46.9	46.7	48.5	47.2	30.2	51.2	27.8 (30.7)
サービス	43.5	42.8	39.6	41.8	33.0	27.7	17.4 (37.7)

《売上（受注・出荷）D I（全産業・前年同月比）の推移》



【採算の状況についての判断】

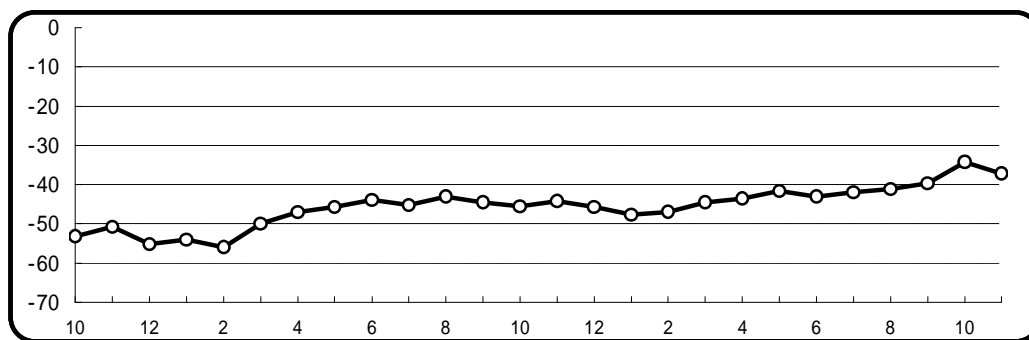
採算面では、D I 値のマイナス幅は製造、サービスを除く3業種で前月水準より拡大し、全産業合計の採算D I は2.9ポイント拡大して37.1となり、5カ月ぶりにマイナス幅が拡大した。

向こう3カ月(12月~2月)の先行き見通しについては、全産業合計の採算D I (今月比ベース)が27.6で、昨年同時期の先行き見通し(37.5)と比べて改善している。

採算D I (前年同月比)の推移

	15年 6月	7月	8月	9月	10月	11月	先行き見通し 12~2月
全産業	43.0	41.9	41.1	39.6	34.2	37.1	27.6 (37.5)
建設	62.2	60.1	56.2	56.4	54.4	55.8	51.1 (55.1)
製造	38.6	36.9	31.1	33.3	28.5	25.3	23.9 (39.0)
卸売	39.8	42.8	40.1	36.2	30.5	35.2	22.2 (31.1)
小売	36.6	34.8	40.3	37.5	27.7	43.1	22.9 (28.8)
サービス	44.4	43.8	43.2	38.6	36.5	31.0	23.2 (37.0)

《採算D I (全産業・前年同月比)の推移》



(参考)

資金繰りD I (前年同月比)の推移

	15年 6月	7月	8月	9月	10月	11月	先行き見通し 12~2月
全産業	32.9	31.5	30.8	29.0	28.3	27.4	24.5 (33.4)
建設	48.9	46.6	44.0	44.3	44.6	41.7	40.3 (49.8)
製造	33.7	27.6	26.9	24.0	24.3	21.7	25.0 (34.0)
卸売	25.7	28.9	32.1	26.4	21.3	22.9	19.4 (30.0)
小売	26.2	26.5	27.8	26.8	26.1	26.6	18.4 (26.5)
サービス	30.4	31.3	27.9	27.2	26.5	26.0	22.1 (31.1)

D I = (好転の回答割合) - (悪化の回答割合)

【前年同月比D I】卸売、小売を除く3業種で悪化超感が弱まり、全産業合計でも5カ月連続で弱まる。

【先行き見通しD I】全業種で昨年同時期に比べ悪化超感が弱まり、全産業合計でも弱まる見通し。

仕入単価D I (前年同月比)の推移

	15年 6月	7月	8月	9月	10月	11月	先行き見通し 12~2月
全産業	3.6	3.2	4.4	4.7	5.4	3.2	5.4 (5.0)
建設	0.4	1.8	2.8	0.4	1.5	1.8	4.1 (0.7)
製造	15.4	14.7	13.3	10.3	14.1	14.3	13.4 (13.6)
卸売	0.0	1.2	3.6	0.6	0.6	8.6	0.0 (1.8)
小売	4.0	2.0	0.8	2.9	0.4	2.1	0.4 (1.4)
サービス	3.6	1.8	6.4	5.3	7.8	3.2	6.6 (7.7)

D I = (下落の回答割合) - (上昇の回答割合)

【前年同月比D I】建設、製造を除く3業種で上昇超感が弱まり、全産業合計でも4カ月ぶりで弱まる。

【先行き見通しD I】製造、卸売、サービスで昨年同時期に比べ上昇超感が弱まったものの、他の2業種で強まり、全産業合計でも強まる見通し。

従業員 D I（前年同月比）の推移

	15年 6月	7月	8月	9月	10月	11月	先行き見通し 12～2月
全産業	14.1	14.6	11.3	10.9	9.3	10.1	9.5 (16.3)
建設	34.3	33.5	28.3	27.3	22.7	23.4	22.5 (30.5)
製造	17.1	18.6	13.2	14.1	10.9	11.2	10.5 (22.1)
卸売	14.5	15.1	10.2	9.8	9.6	12.3	10.6 (15.6)
小売	5.2	6.1	5.5	3.1	4.6	5.8	6.8 (7.0)
サービス	8.2	7.7	4.8	5.8	3.8	3.7	1.9 (12.0)

$$D I = (\text{不足の回答割合}) - (\text{過剰の回答割合})$$

【前年同月比 D I】サービスを除く 4 業種で過剰超感が強まり、全産業合計でも 4 カ月ぶりで強まる。

【先行き見通し D I】全業種で昨年同時期に比べ過剰超感が弱まり、全産業合計でも弱まる見通し。

【平成15年11月の景気キーワード】

先行き不透明感

景気の先行きについて、各業種から依然、不透明との声が寄せられている。建設、製造からは「景気にやや明るさが見えてきたといわれるが、業況は相変わらず厳しい状況が続いている」(札幌・一般工事)、「地方では景気回復という実感は感じられない」(美濃・一般工事)、「景気回復の期待に反し、依然として厳しい状況にある」(京都・和装、足袋製造)、「年末商戦に近づいているが、なかなか良くならない」(多治見・陶磁器製造、同関連)、「悪化のまま不変傾向」(柏崎・印刷)、「若干、業況好転傾向が見られるものの、依然、先行き不透明」(山形・家具製造)との声が寄せられている。また、小売、サービスからも「消費者の購買意欲は依然として低調」(各務原・商店街)、「業況は依然として厳しく、商店街では全く回復の気配が感じられない」(館山・商店街)、「気温が高かった影響で冬物が低迷し、お歳暮商戦も出だしが良くない」(伊那・百貨店)、「マスコミが報じているほど景気回復の実感がなく、消費活動に期待が持てない」(七尾・旅館)といったコメントが寄せられている。

回復への期待感

一部からは、製造業を中心に業況は引き続き好調との声が寄せられており、「DVD、携帯電話、パソコンは好調」(新井・電子部品製造)、「受注は堅調で、増産用の機械設備の導入を行っている企業も出てきており、溶接など一部職種では技能労働者不足も顕在化している」(松任・金属加工機械)、「建設機械および自動車部品関連は好転」(西条・建設建築用金属)、「景気が上向き加減になっていることが少しずつ感じられ、資金繰りも各組合員がリストラや合理化に真剣に取り組んだため、さほど困窮しなくなった」(相模原・金属加工機械)といった声が寄せられている。また、他の業種からも「民間需要が少し伸びて来た傾向が見受けられる」(古河・建築工事)、「気温の低下とともに冬物衣料を中心に動きが戻り、歳暮ギフトも個人需要が順調に推移している」(水戸・百貨店)、「観光客、ビジネス客の入り込みが順調で、忘年会シーズンに期待」(釧路・食堂、レストラン)との声が寄せられている。

天候の影響

卸売、小売を中心に、天候の影響を訴える声が寄せられている。「11月に入って暖かくなり、10月に動き出した秋冬物衣料の動きが止まってしまった」(銚子・商店街)、「11月初めからの気温の上昇により衣料品をはじめ冬物関連商品の販売が鈍り、売上のダウンが大きい」(蒲郡・その他小売)、「販売する物によって売行きが異なっているが、気温が高く冬支度が遅れ気味のため、物販に影響が出ている」(新津・商店街)、「天候要因により11月に入り野菜・果実ともに単価が下落し売上高が減少」(豊田・農畜産水産物卸)、「不作気味だった野菜も最近の天候で回復したが、逆に暖かいため鍋料理をする機会が少なく野菜の売行きが今ひとつで、過剰生産により売値が下落」(川之江・食料、飲料卸)といった声が寄せられている。

【景気キーワードの推移】

年 月	景気キーワード		
15年 9月	不況の常態化	先行き期待感	
10月	回復への期待感	先行き不透明感	企業間格差
11月	先行き不透明感	回復への期待感	天候の影響

景気キーワードは、調査対象組合の各月におけるトピック・関心事項などに関する自由回答をまとめたもの。

【産業別概況】

産 業	概 況
建 設	業況D Iは8カ月ぶり、売上D Iは5カ月ぶり、採算D Iは2カ月ぶりにマイナス幅が拡大した。「店舗の改修、新築等の工事が来年に向けて増えてきた」(一般工事)、「下水道等の公共工事に徐々に動きが出始めている」(大工工事)との声があるものの、「受注量はますますだが、受注単価は採算割れの厳しい状況」(電気工事)、「年末の公共工事の予定がなく、非常に厳しい状況が依然として続いており、組合員も減少している」(一般工事)、「官工事、民間工事とも激減し、受注競争が激化し原価割れの危機的状況」(一般工事)と、引き続き厳しい状況を訴える声が寄せられている。
製 造	業況D Iは5カ月連続、採算D Iは2カ月連続でマイナス幅が縮小し、売上D Iは2カ月ぶりに拡大した。「各社とも好転し、一部の会社では残業を行ったうえ日曜日や祭日も工場を稼働させている」(通信機械器具)、「携帯電話新機種発売、デジタルカメラ、薄型テレビの好調により半導体業界の回復がみられる」(電子部品)と引き続き好調との声の一方、「ITを中心とした大手企業の好調に支えられ、自動車金型も好調を維持しているが、農機、建機、弱電は回復の見通しもなく先行きに不安感が増している」(一般産業用機械)、「一部に業績上向きの企業もあるが、悪化している企業もあり、優劣の差が出ている」(非製鋼鋼材)といった声が寄せられている。また、「スクラップをはじめとする主原材料が高騰」(鉄素形材)と仕入れコスト上昇を訴える声が寄せられている。
卸 売	業況、採算D Iは3カ月ぶり、採算D Iは4カ月ぶりにマイナス幅が拡大した。「食料品関係はやや上向きだが、他は特に大きな変化なし」(各種商品)、「従業員のリストラ、経費削減で少々業績は好転したが、販売が伸び悩み利益が出ない」(食料、飲料)、「企業間にバラつきはあるが、各企業の努力によって懸命に昨年実績の確保に努めている」(衣服、日用品)、「依然として消費が鈍いため生産過剰になってしまい、全体的に安値が続き売上が伸びない」(農畜産水産物)、「全体の70%以上の企業が前年同月比の売上がマイナスで、その内10%以上の減少率の企業が半数以上」(各種商品)といった声が寄せられている。
小 売	業況D Iは2カ月ぶり、売上、採算D Iは3カ月ぶりにマイナス幅が拡大した。「おせちの予約販売の反響が良く、クリスマス商戦にも期待」(百貨店)との声はあるものの、「気候が暖かく、冬物衣料を中心に売上が低迷」(商店街)、「気温が高く、食品もなべ材料等、季節食材が売れていない」(百貨店)と天候の影響による販売不振を訴える声や、「歳暮の受注は順調だが、例年12月上旬のピーク時の前倒しで、歳暮商戦全体の底上げには至らないと思われる」(百貨店)、「客単価の微減が続いており、天候の要因もあるが、消費の減少が当分続くと考える」(百貨店)と消費の低迷を訴える声が寄せられている。また、「農産物の仕入れ単価は下がってきているが、米不足から米の単価が上がってきている」(百貨店)と仕入れコスト上昇を訴える声も寄せられている。
サービス	業況、採算D Iは5カ月連続、売上D Iは2カ月連続でマイナス幅が縮小した。「年末年始の予約は、12月に入ってから増加の見込み」(旅館)、「顧客が戻り好転してきたが、店舗による格差が大きく、年末に向けて明暗がはっきり分かれそうな状況」(食堂、レストラン)、「年末に向けて先行きは明るい、企業が接待費を削減しているので、不透明感がある」(食堂、レストラン)、「連休中は良いが、それ以外は業況悪化傾向」(食堂、レストラン)、「依然として荷動きは低調のままで、運賃値下げなどで苦しい状況が続いている」(運輸)、「客数は微増だが客単価は微減で、安い料金の時間帯に流れる傾向がある」(スポーツ施設)といった声が寄せられている。

(参考)

【ブロック別概況】

ブロック別の業況D I (前年同月比ベース)をみると、四国、九州を除く7ブロックでマイナス幅が拡大し、全ブロック合計でも拡大した。

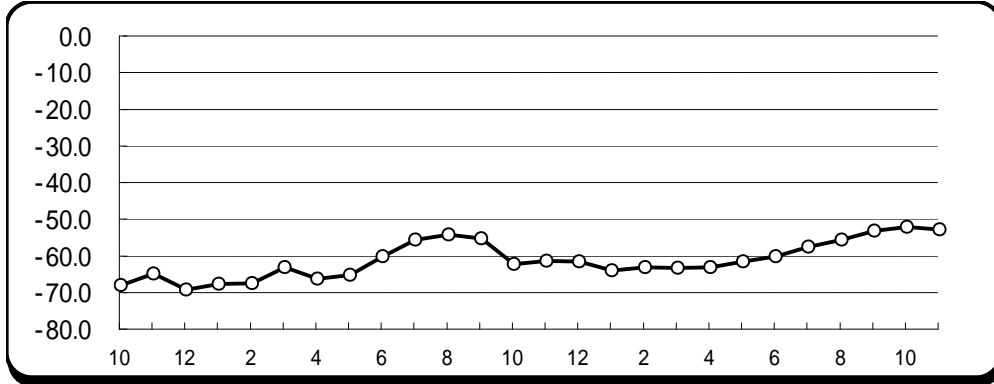
ブロック別の向こう3カ月(12月~2月)の業況の先行き見通しは、全ブロックで昨年同時期と比べ改善している。

ブロック別・全産業業況D I (前年同月比)の推移

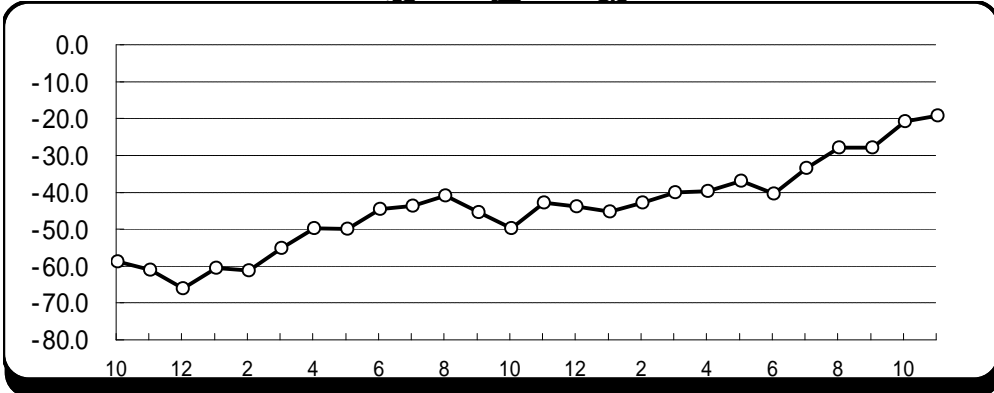
	15年 6月	7月	8月	9月	10月	11月	先行き見通し 12~2月
全 国	49.1	47.6	45.0	43.4	35.8	38.7	30.3 (45.1)
北海道	41.5	39.8	40.7	37.0	34.5	37.7	29.8 (50.8)
東 北	46.8	46.7	48.8	42.4	41.5	41.8	37.6 (47.7)
北陸信越	45.0	42.1	44.0	46.0	33.1	35.7	30.3 (49.2)
関 東	48.9	50.0	47.2	44.1	28.4	35.7	23.6 (40.7)
東 海	42.8	46.7	41.9	46.5	31.3	36.1	29.5 (43.6)
近 畿	55.6	48.3	39.6	43.7	42.9	45.0	37.8 (49.5)
中 国	47.2	43.8	46.1	41.3	36.2	36.6	32.8 (48.7)
四 国	52.3	58.5	49.6	39.6	40.4	39.6	25.5 (35.8)
九 州	56.3	50.0	47.3	45.9	41.6	40.1	31.1 (41.5)

業況DI（前年同月比）の推移（全国）

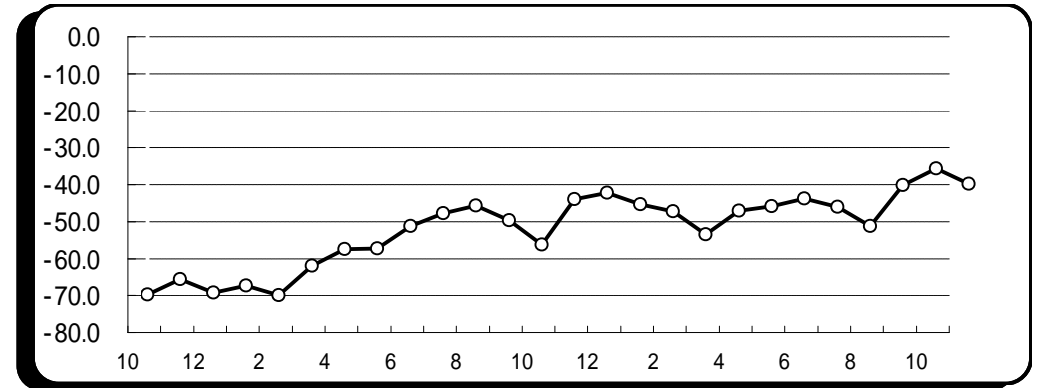
建設業



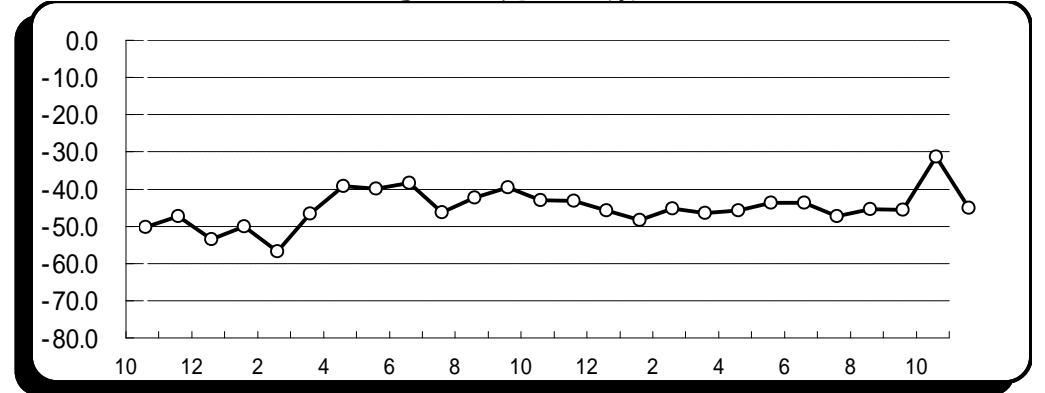
製造業



卸売業



小売業



サービス業

